

延床面積の見直し 13,000㎡ → 10,800㎡ （▲2,200㎡・▲16.9%）

前提 本資料の面積は、要求水準の検討にあたり市が内部的に整理したものです。
実際の諸室構成・規模は、要求水準を満たす範囲で事業者の提案によります。

考え方

①「融合」の考え方に基づく諸室の兼用・共用化（重ね使い）による機能の維持

・ 諸室・スペースの見直し 8,790㎡ → 7,230㎡ ▲1,560㎡

管理運営計画に掲げる各諸室・スペースの面積を一室ずつ精査

② 廊下・共用部・設備、ホール付帯諸室の効率的な規模設定

・ 施設全体廊下・設備等の見直し 4,210㎡ → 3,570㎡ ▲640㎡

動線を集約した平面計画と効率的な設備方式を前提に、独自に水準を見直し

みらいスペース

ラウンジ、和室、カフェ・ショップ、子育て支援センター等

1,050 → 1,020 ㎡

▲30㎡

カフェ・ショップを縮小、児童書架の見直し

みらいスタジオ

多目的ホール、練習室、学習スペース等

1,705 → 1,220 ㎡

▲485㎡

多目的ホール（専用のホワイエを設けず共用部と一体利用）・練習室・ミーティングスペースの室数等を見直し

みらいステージ

メインホール、企画展示ギャラリー、アトリエ

2,950 → 2,475 ㎡

▲475㎡

客席800席を維持しつつ、舞台裏等の通路スペース・ホワイエ・控室を見直し

全体（開架・案内）

一般開架・総合案内・相談カウンター等

830 → 730 ㎡

▲100㎡

一般開架を縮小（閉架書庫は拡大し蔵書量は確保）

管理エリア

廊下・設備・事務室・倉庫等

6,465 → 5,355 ㎡

▲1,110㎡

廊下・設備、バックヤード、事務室を見直し

合 計 13,000㎡ → 10,800㎡ （▲2,200㎡）

※区分は管理運営計画P50～P60「各諸室・スペースの諸元」によります。上表の5区分で全体の内訳を表しています。

管理運営計画のとおり確保する主な水準

メインホール800席（舞台間口8間）／多目的ホール客席200人規模／
図書館の蔵書収容力・レファレンスコーナー／学習席の総数／
企画展示ギャラリー・ブレイルーム・子育て支援センター・和室

など

留意点

図書館の開架率を60%→50%に見直し（閉架書庫を拡大し蔵書量は確保）／
多目的ホールのホワイエは共用部と一体利用の想定／一部の練習室は楽屋兼用

など